

緊急注意喚起情報

米づくり技術情報 No. 11

令和3年7月26日

台風第8号が接近中！！ 強風・大雨対策をしっかりと実施！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

台風第8号は、日本の東を1時間におよそ35キロの速さで北北西へ進んでいます。27日には東北地方から東日本に接近し、上陸するおそれがあり、山形県では、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所があると予報されています。

現在、早生品種等で出穂が始まっており、フェーン現象や強風などでの白穂の発生、大雨での浸冠水への注意が必要です。

なお、今後の台風情報に十分注意し、台風通過中の悪天候時は、安全確保のためほ場等の見回りは行わないようにしてください。



(気象庁 台風第8号経路図 7月26日9時現在)

1 強風、フェーン対策

台風に伴う強風やフェーン現象に合うと、急激な蒸散が起こって稲体の消耗が大きくなることから、降雨の予報内容に関わらず、台風の接近前に可能な限り湛水しましょう。

出穂前後の穂は、白穂になる恐れが特に強いため、必ず湛水します。

2 大雨対策

大雨で冠水した場合は、葉先や穂先だけでも、水面に出すよう、安全を十分確保した上で、速やかに排水しましょう。

なお、台風の接近前に、水路の点検を行い、ゴミや泥の除去を行う等スムーズな排水が可能となるよう努めます。

3 台風通過後の対応

- (1) 浸水や冠水の被害を受けた場合、退水後は、土壤中の酸素が不足しているので、新しい水と交換します。その後、出穂が確認されたほ場では、穂揃期まで湛水管理を行います。出穂前のほ場や穂揃期以降のほ場では、こまめに間断かん水を行い稲体及び根の活力維持を図ります。
- (2) 濁水が冠水した場合や、強風で稲体の損傷や倒伏が発生した場合は、病害虫の発生が懸念されるので、直ちに防除を行います。
- (3) 浸水や冠水で泥が大量に流入した場合は、排水後に速やかにほ場の額縁及び条間に、泥をかき分けるように作溝を行い、新しい用水を入れます。
- (4) 浸水時の早い流れや土砂の勢いで倒伏した場合、株起しを行うことで生育が回復する場合がありますので、可能であれば実施します。